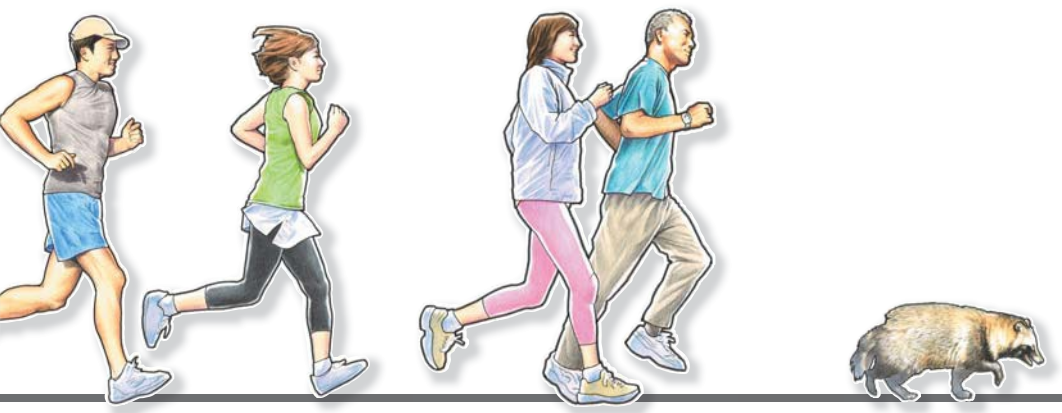


大丸有サステイナブルビジョンについて

「大丸有サステイナブルビジョン」は、ひともまちもビジネスも
「サステイナブルな」都市として目指すべき未来の姿を示し、
大丸有地区を再構築していくことを広く社会に宣言するものです。
「大丸有サステイナブルビジョン」について詳しくお知りになりたい方、
取り組みにご支援・ご協力頂ける方は、事務局（エコッツェリア協会内
concierge@ecozzeria.jp）までご連絡ください。
本冊子は、下記ホームページからPDFファイルにて
ダウンロードすることも可能です。 http://www.ecozzeria.jp

2007年 5月発行「大丸有環境ビジョン」
2013年10月改定「大丸有サステイナブルビジョン」

発行主体：「大丸有サステイナブルビジョン」策定委員会

［構成メンバー］

一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会
〒100-8133 東京都千代田区大手町1-6-1
大手町ビル6階
http://www.otemachi-marunouchi-yurakucho.jp

リガーレ（特定非営利活動法人大丸有エリアマネジメント協会）
〒100-8133 東京都千代田区大手町1-6-1
大手町ビル635区
http://www.ligare.jp

エコッツェリア協会
（一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協会）
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-5-1
新丸ビル10F エコッツェリア
http://www.ecozzeria.jp

© 2007 -2014 The OMY Sustainability Vision Creation Committee /
Illustration by Shigeru Nakamura

1000年先まで、
いきいきとした
まちでありたい。

大丸有サステイナブルビジョン
策定委員会事務局

1 私たちが考える サステイナブルな社会

1000年続く社会：人々のいきいきとした活動が未来につながる社会へ

私たちが考えるサステイナブルな社会は
多様な“人”が主役です。そして“人”がつながる
“コミュニティ”が重要です。
私たちは、多くの人々を巻き込むことによって
多様性を生み出し、“人”と“コミュニティ”の
創造性を高め、交流とイノベーションを
起こしていくことによって、サステイナブルな
社会の実現を目指していきます。

2 大丸有地区のあゆみ

江戸時代：最初の集積が

本エリアはかつて日比谷入江に臨む静かな漁村だったと
言われています。約400年前の江戸開府を契機に江戸は、
パリやロンドンをもしのぐ世界最大規模の人口と
経済活動を集積した都市に生まれ変わりました。
人工と自然が調和した見事な水網都市として、
環境共生型都市の一つのモデルを構築したといえます。

明治－大正：オフィス街としての基盤確立

明治維新を機に、大名屋敷街だった大丸有エリアは
官庁街や兵営街へ転用されました。その後、東京市に
より丸の内を商業地として利用する基本方針が示され、
日本の文明開化を牽引する近代的なオフィス街に
変貌しました。赤煉瓦建築が建ち並ぶその姿は
「一丁倫敦」と呼ばれました。

1849年（嘉永2年）作成
御江戸大名小路絵図 全 国土地理院

1909年（明治42年）ごろの
馬場先通り「一丁倫敦」

1914年（大正3年）に完成し震災等を
経て2012年に元の姿に復原された
東京駅舎

昭和－平成：
グローバルなビジネスセンターへ

その後、赤煉瓦街から近代的ビル群への建替えが進み、
日本のビジネスセンターとして高度経済成長を
支えていくことになります。そして、経済グローバル化の中で
存在感を高めた大企業が多数集積する、
世界経済を動かすまちになりました。
この間、景観や公共空間のありかたなど大丸有の
まちづくりの議論が進む過程で、企業と行政が協力し合い、
就業者を含めた大丸有コミュニティが形成されました。

新旧の歴史が一体となって
新たな文化と経済をうみだすまち

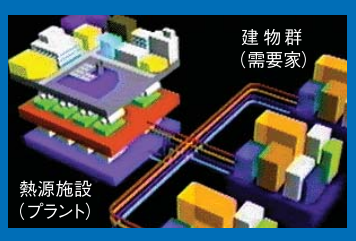
心地よい緑陰ができ
歩きやすくなった丸の内仲通り

国際ビジネスセンターとして
機能強化が進む大丸有地区

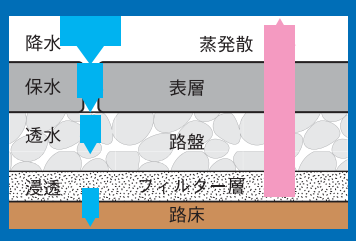
環境ビジョンから
サステイナブルビジョンへ

私たちが2007年5月にメッセージを出した環境ビジョンによって、
大丸有地区では、経済的な効率性と共に環境にも配慮する
意識を育むことが出来ました。私たちはこの間、東日本大震災や
リーマンショック、人口減少を経験する中で、経済や社会、
環境といった様々な課題を個別に対応するのではなく、
複合的な視点で対応する都市・地域づくりが重要になると
考えました。つまり、環境や経済、社会のバランスから、
それぞれがつながることによって都市・地域のサステイナビリティを
解決するモデル※1を創り出すことが重要となります。
そして、それが結果として、新たなビジネスにつながり、
大丸有エリアの価値を高めると考えました。
私たちは、環境ビジョンからサステイナブルビジョンへと
進化させることによって、次のあゆみに踏み出します。

※1 近年、社会問題の解決を目指すビジネスの創出によって、社会と企業の双方に価値を生み出す事業戦略として言われている共有価値の創造（CSV：Creating Shared Value）の動きと符合した考え方です。



大丸有エリアでは約30年前から効率
の高い地域冷暖房を導入している



ヒートアイランド現象を緩和する
保水性舗装

地区内の人々が参加する
夏の風情となった打ち水

3 大丸有地区が目指す サステイナブルコミュニティ

大丸有地区が持つ知識の集積とネットワーク

大丸有地区は、明治時代から続く、日本を牽引してきたオフィス街として日本を代表する多くの企業や人が活動しています。そしてこの活動により、大丸有地区には多くの記憶、知識情報が集積しています。これは、サステイナブルな社会の実現に資する大事な資源となります。さらに、大丸有地区は日本の交通のハブとして国内各地、さらには世界とつながっており、多くの人々が集まるために欠かせないインフラが存在します。
私たちは、日本最大のオフィス街である大丸有地区が持つ集積とネットワークを活かして、創造性の高いコミュニティを形成し、サステイナブルな社会の実現に寄与していきます。

大丸有サステイナブルコミュニティの概念

絆という資本を基盤に社会を良くするビジネスを生み出し続けるまち

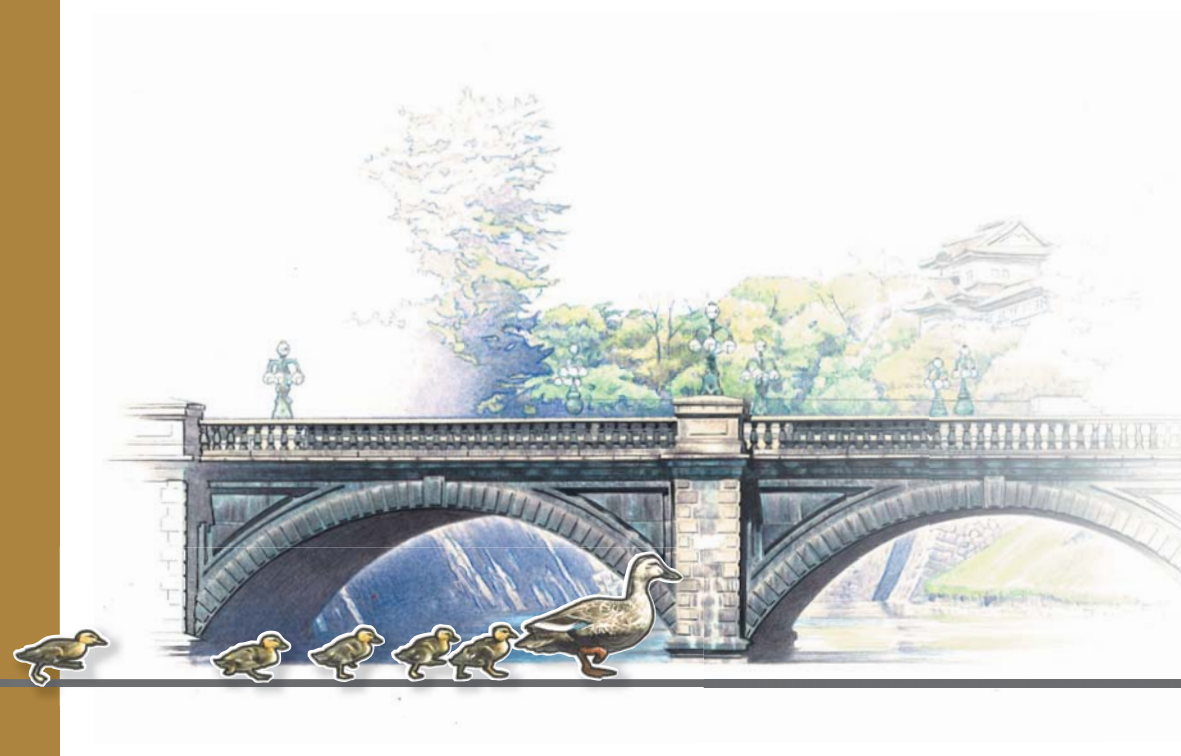
●大丸有地区で考えるサステイナブルコミュニティの姿

大丸有サステイナブルコミュニティは、人そしてコミュニティが中心となって、イノベーションを生み出し続けるまちです。
そして、まちを創り育てていくための仕組みとしてエリアマネジメントが強化され、多くの人を巻き込みながら常に動いているまちです。そして、このまちに創出される空間は、様々な人を巻き込み、つなぎ、活動が生み出される場として力を持つようにデザインされ、イノベーションを支えています。

●大丸有サステイナブルコミュニティの構造

大丸有サステイナブルコミュニティは、知識や創造性を持つ人々がつながるコミュニティ活動によって育まれる“絆”※2という資本が推進力となっているコミュニティです。
そして、この推進力を強めていくために、より人々が“創造”性を高める場づくり、快適に活動できる“環境”性能の向上や安心できる“安全”性の確保、健やかに活動できる“健康”という領域を柱とし、これらの領域についてのサステイナビリティを強め、多くの人が惹き付けられることによって、コミュニティを拡げています。そういった活動を通じて強まった“絆”が、コミュニティ全体の創造性を高め、サステイナブルな社会につながるビジネスを生み出し続け、世界へ波及していきます。

※2 東日本大震災以降、絆という言葉に注目が集まっています。絆は、どちらかというと生活ベースで情緒的に用いられる言葉ですが、私たちは人と人、コミュニティとのつながりこそがイノベーションを生み出す資本になると考え、つながりを表す言葉として“絆”を用いました。



4 私たちが描く未来へ向けて
Vision

育まれつつある“絆”をベースに、より創造性を
高めていくための多様なコミュニティを形成することで、
絆を強化し、その絆を動かしていくためのエリア
マネジメントを進め、イノベーションを生み出し、
世界へいい波紋を広げていきます。

(1) 絆を強化する多様なコミュニティをつくります

コミュニティの担い手である人を大切にします

① 気づいて、変わっていく人を支援するまち
サステイナブルな社会へ向けて最も大切なのは人の意識と行動、そして思い。人々に環境や健康、安全に関する気づきが生まれる接点を作り、人々の行動がよりサステイナブルな方向に変わっていくことを支援していきます。

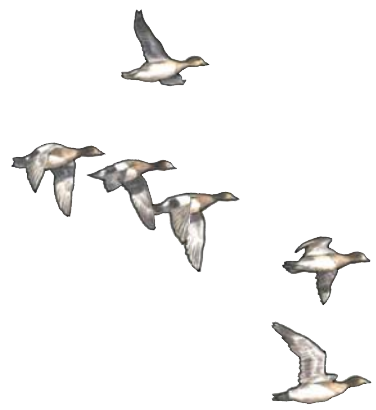
② 人が活発で健やかに活動できるまち
コミュニティを作っていくためには、人がいきいきとしていることが重要です。多様な人がサステイナブルな社会の実現に向けて力を発揮できるとともに、このエリアで活動することによって、自らの健康を考えるきっかけを創出していきます。また健康でいたい人々を支えるサービスが展開しているまちをめざします。

③ みんなが安心・安全に過ごせる快適なまち
都市機能を支える効率的なエネルギー、水インフラについて地震など様々な災害に対しても寸断しないよう、冗長性を持たせるなどにより、安全な環境を創り出します。さらに、人々の日常的なつながりを構築し、このつながりが災害時にも機能するようなまちをめざします。

多様な人が引き付けられる場づくりを進めます

④ 居心地の良さを感じるパブリックスペース ※3 がつながるまち
人を引き付けるためには、居心地が良く五感が刺激される場が重要です。生態系に配慮した緑地や、空間に活動が生まれるような設えを用意した豊かな歩行者空間、広場など人々の居場所となるパブリックスペースを創り出し、さらにそれらをネットワーク化していきます。また、このような余裕を持った空間を非常時の安全拠点として機能させていきます。

※3 ここでは単に公的な空間ではなく、広場や公開空地、歩行者空間など、人が集える空間の総称。



⑤ 人がつながり創造性を高めるきっかけがあるまち
様々な人々が交流してアイデアや情報が飛び交う場所、時間を気にせず佇み刺激を得られる場所などを、本地区が持つ場所性や文化性、機能をつなぎ合わせることによって生み出し、多くの人が集まり、つながることによって、創造性が育まれる場づくりを進めていきます。

⑥ アイデアや思いを実現できるまち
環境や健康など、新たな社会課題に関するイノベーションに柔軟に対応するインフラや空間を備えることで、イノベーションのための場づくりを進めるとともに、アイデアや思いをイノベーションにつなげていくための仕組みも備えたまちをめざします。

(2) エリアマネジメントを進めていきます

⑦ まちや人の状態を見守り続けるまち

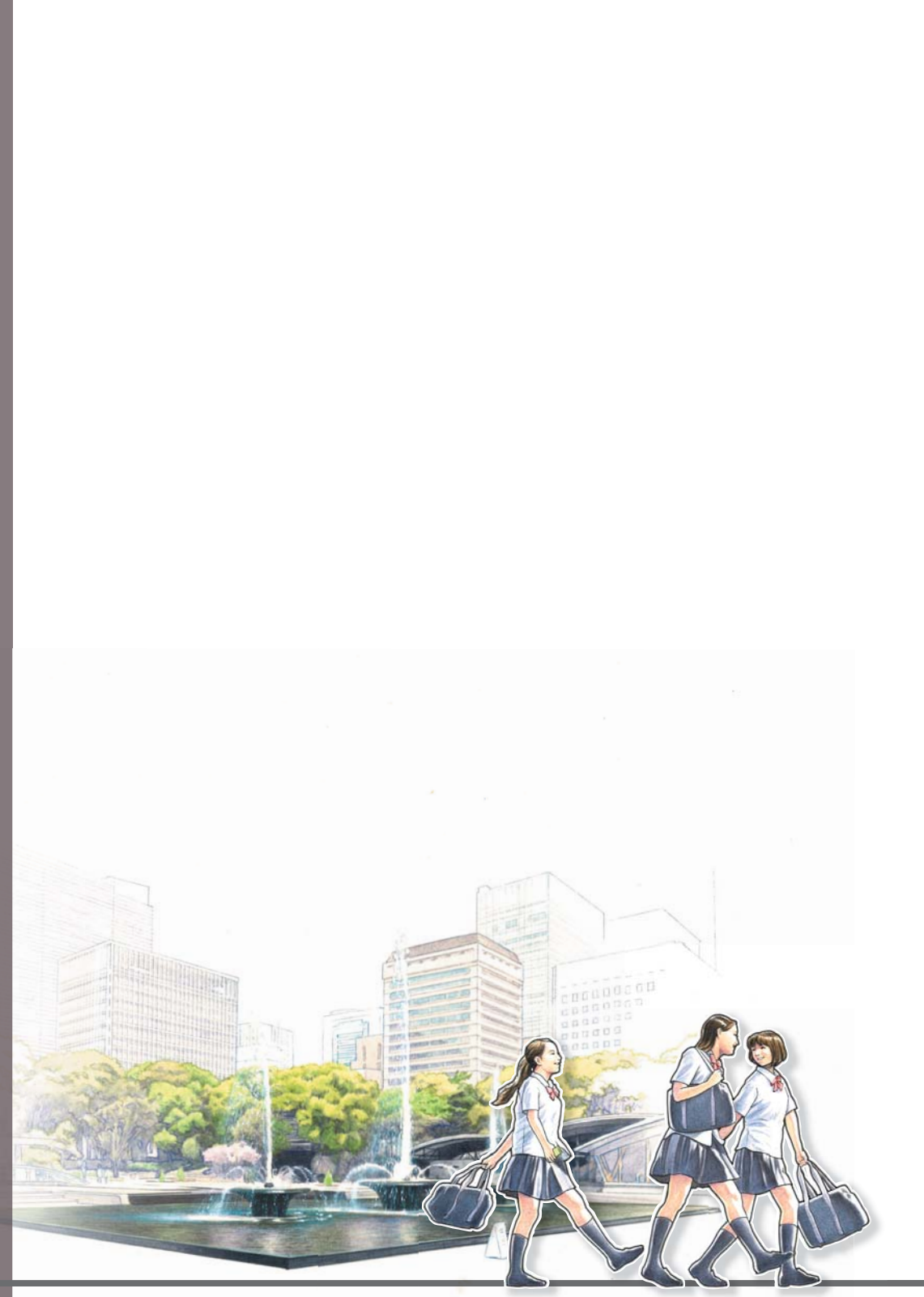
まちも人もより健康で効率的に活動するためには、その状態を把握し、マネジメントしていくことが重要です。高度なICTを活用し、エネルギーや水の運用管理を適切に行っていくとともに、まちや人の状態を把握し、個々のニーズに応じて情報提供していくことで、個人や企業の行動変容を支えていきます。

⑧ 多様な活動を生み出すまち

地区全体でサステイナブルな社会へ向けた取組みを実践していくためには、サステイナビリティの向上という目標に向けた意識的なプランニングやプロデュースが重要です。地区に関係する誰もが議論に参加できる機会や枠組みを設けることによって、意識を共有し地区で起こる様々な活動がサステイナブルな社会の実現に寄与していくことをめざします。

⑨ みんなでつながり運営しているまち

サステイナブルコミュニティを創り育てていくためには、みんなでつながり、思いを持って、まちづくりに係わっていくことが重要です。日常的に人々が交流する場を活用し、コミュニティの一員としての仲間づくりを行います。また、資金確保や役割分担の明確化などについて議論を進め、まちを運営していくための仕組みづくりを進めていきます。



(3) 多くのイノベーションを生み出し波及させていきます

⑩ 多様性を高め様々な課題を共有するまち

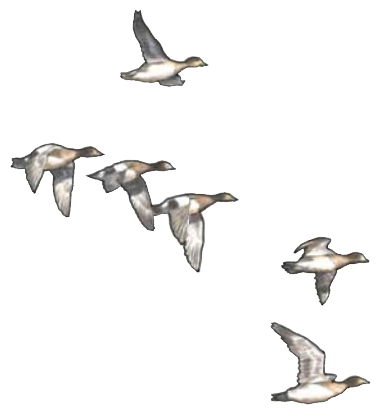
本地区は、交通のハブとして多くの地域とつながっています。このネットワークを活かし、他地域の人々も巻き込むことで、地区の多様性を高め、更なる情報集積を進めます。そして、日本や世界の課題を多くの人々で共有し、必要なイノベーション領域を見出していくことが出来るまちを目指します。

⑪ 他の地域と手を取り合って新たな解決策を生み出すまち

本地区は、エネルギーや食料だけでなく、そこで働く人々も、他の地域に支えられて成り立っているまちです。他の地域の人々と連携し、サステイナビリティの向上につながる解決策を生み出していくとともに、ここを巣立った人々が、他の地域でサステイナブルな社会へ向けた担い手となるような支援を行っていきます。

⑫ 社会の課題を解決し世界へ“いい波紋”を広げるまち

本地区の資源や他地域との連携により生まれたイノベーションを、社会を良くするビジネスとして波及、展開していくことで、世界へ“いい波紋”を広げ、サステイナブルな社会を創るコミュニティとしてのブランドを確立し、世界へ貢献し続けることをめざします。



5 未来へのあゆみ Action

実現に向けて

私たちが描くビジョンをかたちにするために、どのような行動を起こせばよいのでしょうか。私たちは大丸有地区にかかわる方々と以下のような取り組みを実施または支援していきます。
ここでは、本地区が取り組むべき事業領域の方向性を示しています。事業立案の過程では、立場の違いによる利益相反の解消や、全く異なる新たな視点が求められることもあるかもしれません。実現のための手法や担い手、実現の時期等については、多様な可能性と議論の余地をもっています。また、これらの取り組みはひとつひとつが単独に行われるだけでなく、ときには事業領域や組織の枠を超えて横断的・連鎖的に実施されることで、より相乗的な効果を発揮することを想定しています。サステイナブルビジョンの柱として掲げられた「創造」「健康」「安全」「環境」を念頭に置きながら、それらが掛け合わされ相乗的な課題解決が期待できる、9つの重点事業領域を設定しました。
そして、それらの実現のためには、多様なステークホルダー（利害関係者）の連携と協力が重要です。地権者・ビルオーナー、テナント、就業者、来街者、国、東京都、千代田区、エネルギー供給事業者、そして私たちエリアマネジメント組織が議論を重ね、協働してビジョンを実現していきたいと考えています。

Enhance Creativity

（1）創造性を喚起する多様なコミュニティづくり

社会やビジネスの課題を解決に結びつける過程で、本地区とその多様なステークホルダーが果たすべき役割を明確化し、地区全体のソーシャルキャピタル（社会関係資本）を豊かにするとともに、課題解決に取り組む多様なコミュニティを形成します。

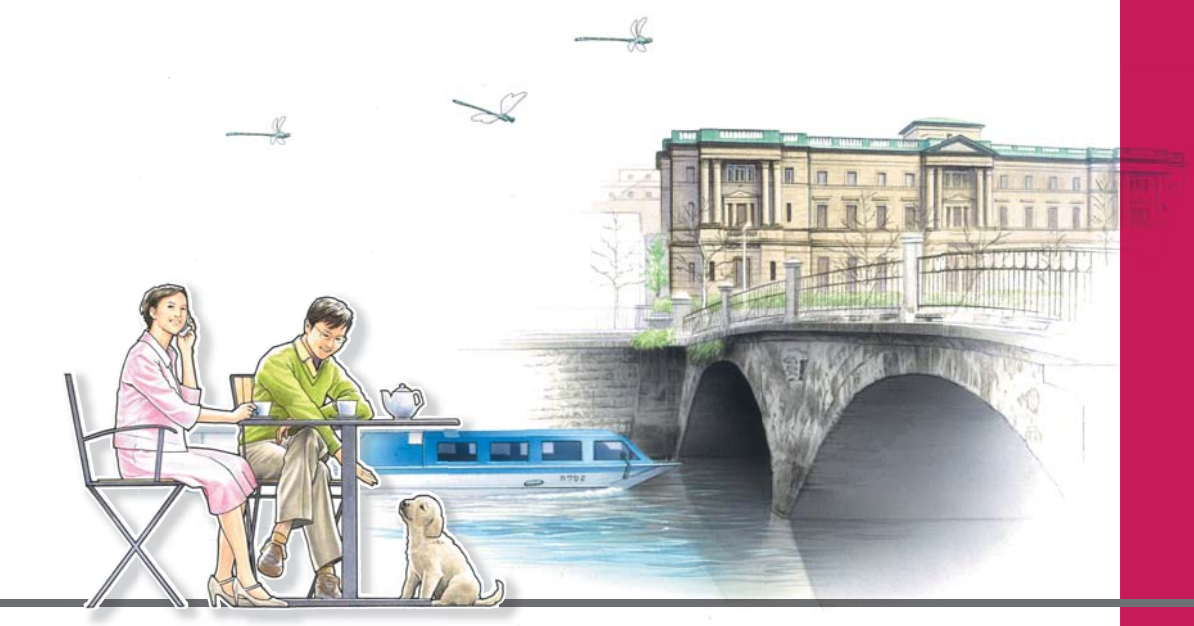
① 気づきを促し、新たな着想や、会うべき人に出会うことのできる、家でも会社でもない居場所となるサードプレイス※4 を提供
② 自分の強みを生かす方向性や指向が同じ人々と協働できる達成感共有の場を提供（スポーツや、文化芸術活動 等）
③ 実践された成果・効果を発信したり、蓄積された情報を検索したりできる、サステイナビリティ・ショーケースとなる場の提供
④ 上記のような活動の拠点の一つとしてエコッツェリアを活用
⑤ 歴史性や文化性を活かし高めていく場、機会の提供（三菱一号館美術館、ラ・フォル・ジュルネ 等）
⑥ 偶発的な出会いの場を提供するオフのアクティビティの充実（丸の内ハウス 等）

※4 特に都市生活者に必要とされる、家でも職場でもない第3の居場所。いつでも気軽に足を運び、ONとOFFを切り替えたり、ありのままの自分を表現したり、自己実現の場としたりできる場所のこと。

Public Space

（2）人が集う外部空間・公的空間の体系的活用

屋上、壁面、路面、公開空地などの外部空間や公的空間を体系的に活用し、就業者や来街者が季節を通じて快適に滞在しリフレッシュできる空間や、多様な活動の場として新たな高度活用と運用方法を検討し整備します。



① マルシェ等の定期開催や、地区全体をフィールドミュージアム※5としたツアーなど、人と人とのクリエイティブな関係を形成しやすい場を提供
② 情報キオスク※6や屋外ミーティングスペースを設置するなど、多様なコミュニティやエリアマネジメント組織による活動の場を整備
③ 効果的な緑陰やストリートファニチャの設置、適切な風の導入等によりアメニティを向上し、心地よく滞在できる場を整備
④ 皇居の緑に隣接する生物相の保全、農作物や果樹等による植栽や植物工場の導入による食べられる緑地化、市民農園化等、都市の里山的な整備
⑤ 屋上・壁面緑化や高反射性塗装や保水性舗装、ドライミスト※7等のヒートアイランドを抑制する設備の整備
⑥ 上記の平時の機能向上と併せ、災害時に有効な活動スペースとなる緩やかな空間を整備
⑦ 周辺地域（神田、日比谷、霞が関、銀座、日本橋等）との接点となる空間・拠点の検討・整備

※5 いわゆるハコモノとは異なり、歴史・風土・文化を含む地域全体を博物館や美術館に見立て、参加者が主体的な活動を通じて価値を発見していく仕組みのこと。
※6 まちの様々な情報を入手できる案内所や新聞スタンド等として使用される道路脇や公園等の簡易な小屋。
※7 微細な水の粒で人工的な霧を発生させ、その蒸発の際の気化熱によって周辺の気温を下げる設備。

Innovation Management

(3) 新たな課題領域に関するイノベーション支援

創造性の高い人や企業のイノベーションを支える取組を進めていきます。特に、新たな課題領域であり成長産業ともなる健康や食といった領域を短期的なターゲットとし、新たなサービスの開発を進めることにより、地区内就業者の知的生産性を向上し、人や組織のパフォーマンスを最大化します。

① 先進技術やノウハウを有する企業間連携等により新たな共有価値を生み出す場を提供
② 多様なワークスタイルやライフステージに対応し、育児や介護による離職リスクも回避できる働きやすさを提供するサービスの開発・提供
③ 就業者の健康維持を支援する情報提供や、本地区の商業集積を活かした安全・安心でおいしい食のサービス、カフェのように気軽に立ち寄れ、専門家に相談できる拠点等の開発・提供
④ 人とまちの健康状態についてのパフォーマンス評価指標づくりや就業者の健康を企業価値の構成要素とする健康経営や健康会計等の導入を支援
⑤ 周辺地区と連携した職住近接の多世代コミュニティ形成とアクティブシニアの活躍 等

Business Continuity District

(4) 事業継続性の確保を通じたサステイナブルなまちの機能強化

地権者、テナント、行政、防災隣組等の連携により、平常時から多様なまちづくり活動等を通じてコミュニケーションを深め、非常時の事業継続にも合理的に機能する都市インフラと人的ネットワークを構築します。

① 平時からの緩やかなつながりと、非常時の対応力を強化するマネジメント組織の構築
② BCD※8を支える人的ネットワークの求心力となるコーディネーターの設置
③ 大規模災害時にも断絶しない強固な通信網を活用し、地区全体のビルやインフラの稼働状況をモニタリングし、非常時にはそれらを集約した情報をビルオーナーや企業に提供
④ 就業者や来街者等へ、各種災害情報や交通インフラの復旧情報等の、非常時の情報流通を図る
⑤ 既存インフラストックの更新・再活用や大規模災害に耐え得る強固な構造をもった建物・施設を構築し、緊急対策や復旧・復興に伴う環境負荷や損失を最小化
⑥ 災害時にも必要最低限の生活・企業活動を継続可能とする自律分散型のエネルギー・水利用システムを建築物の地下等に構築

⑦ インフラ導入と連動した平時・非常時の複合用途化により、
個別建築物の経済合理性を高めながら、地区全体へ貢献する、
業務地区における安全拠点のモデルとなる整備を推進

※8 Business Continuity Districtの略。事業継続のための基盤整備を推進する地区。

Energy Management

(5) 統合的なエネルギーマネジメント体制の構築

地区内エネルギー需給の安定かつ最適な管理を可能にする統合的なエネルギーマネジメント体制を構築し、将来的にはカーボンニュートラル※9の実現を目指します。

① 地権者、テナント等と連携し、エネルギー消費データを把握、および見える化を図る
②電力供給事業者や熱供給事業者と連携し、水・氷蓄熱、コジェネレーションなどの最新の高効率な設備を導入・更新
③ 太陽光、太陽熱、風力、水力、バイオマス等の再生可能エネルギーの調達
④ 供給安定化とピーク時対応に加え、非常用発電としても機能する自律分散型発電設備の整備
⑤ ビルエネルギーマネジメントシステム（BEMS）※10の高度化に加え、電力や熱を連携融通する供給の最適化や、需要家が需要量を抑制するデマンドレスポンス※11も可能な地域エネルギーマネジメントシステム（District-EMS）を構築
⑥ 上記を活用し、地区内のエネルギー需給を統合的にマネジメントする事業スキームを検討

※9 地区内で行われる活動が大気中のCO2を増加させない状態。
※10 Building Energy Management Systemの略、ビルの機器・設備等の運転管理によってエネルギー消費量の削減を図るためのシステム。
※11 電力不足の可能性が生じた時に、需要家が協力して需要（デマンド）を抑制する仕組み。

Bioregion

(6) 水資源の活用・水網都市の復権

江戸の町の生活基盤／都市基盤には、水網都市とも呼べるような豊かな水資源がありました。我々も水資源について、その来し方行く末までを含めてバイオリージョン※12として捉え、水が人やコミュニティにもたらす様々な恵みへの理解を深め、有効活用を推進し、時代に即した新たな水網都市を再構築します。

① 大丸有周辺の水系・生態系の実態調査の実施と、結果を踏まえた水資源の統合的管理
② 下水管理者・河川管理者と連携し、下水や河川水を利用可能とするインフラを構築し、中水、下水、雨水、湧水の利用を促進
③ 皇居濠水や河川等、地区周辺の水辺空間を改善する水再生処理施設の導入
④ 水処理時の汚泥や藻類等の副産物もバイオマスとして利用を検討
⑤ 建物・施設の管理者、テナント等に対する夏季の打ち水の呼びかけや、自動散水設備や移動体（散水車等）による公共部分への打ち水実施方法の構築により、ヒートアイランドを抑制
⑥ 東京都の河川整備計画と連動し、常磐橋門跡等の景観を生かした親水空間の整備等を推進し、防災機能、都市観光機能の向上に舟運を活用

※12 気候・地形・流域などによって、一つのまとまりを持った生命圏と認められる地域。

Eco Mobility

(7) 快適で環境負荷の低い新たな交通・物流システムの構築

就業者や来街者が、安全で快適にかつ本地区ならではの都市景観を楽しみながら移動し、その多様な活動の場をネットワークする環境負荷の低い交通システムの提供と、地区内の物流の最適化を図ります。

① トランジットモール[※13]やバイク＆ランステーション等の、就業者や来街者の徒歩や自転車利用を促進するインフラや施設
② 丸の内シャトル等の快適な地区内移動手段の拡充と、エコカーやカーシェア等の環境負荷の低い交通手段利用を促進するインフラや施設
③ 共同物流や、エコトラックの優先荷捌き場の整備等により、合理的で環境負荷の低い地区内物流手段への移行を促進
④ 交通・物流手段（ベロタクシー[※14]、ビアバイク[※15]、ミルクラン[※16]等）についても、都市観光との連携や都市景観に溶け込む魅力的なものとしていく

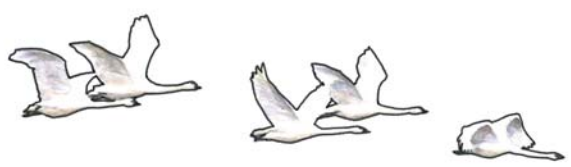
※13 歩行者・自転車・公共交通機関専用道路。
※14 ドイツで開発された高性能な自転車タクシーとその運営システム。丸の内でも運行中。
※15 お客がビールを飲みながらペダルをこぎ、市内観光もできる移動式ビアカウンター。
※16 牛乳業者が酪農家の間を回って牛乳を引き取っていく様になぞらえた、小ロットの発送に対応した巡回集荷の物流方式。小型トラックや人力牽引車等が用いられることが多い。

Reuse Reduce Recycle

(8) 廃棄物の多段的活用

就業者、地権者、テナント、行政、処理業者等が連携して、モノの使い方、捨て方についての共通理解を深め、発生の抑制から適切な処理までの流れを最適化することで廃棄物を削減し、再利用率を高め、必要なエネルギーも抑制します。

① 廃棄物の再資源化率を向上する分別・収集方法の改善に向けた啓発活動と設備導入
② コンパクトで高効率なバイオマス処理システム・プラントの建設を検討
③ 建物・施設の解体に伴う建設廃棄物を適正にリユース・リサイクル
④ 新築する建物・施設の長寿命化により、将来的な建設廃材の排出量を削減



Area Management

(9) サステイナブルなエリアマネジメント活動の推進と人材育成

まちづくり団体、地権者、テナント、行政、就業者、来街者、地区内外のサステイナブルなまちづくりに必要な技術やノウハウを有する企業や大学など、立場の異なる方々によってビジョンを共有化し、合意形成と自発的な参加を促すエリアマネジメント活動を推進します。

① まちづくりの多様な課題解決を担う組織体制づくりと公民連携の強化、BID[※17]制度等も参考にした事業の安定化に向けた運営財源の確保
② 組織運営を統括するマネージャー、コミュニティを活性化するファシリテーター、企画表現力のあるプランナー、目利きのプロデューサー等の人材確保と次世代育成のための養成所機能
③ 地区内のサステイナブルなまちづくり関連データを集め、分析・評価したうえで、その結果をエリアマネジメントに活かすとともに、関係者の意識を醸成し、行動を促進
④ 大丸有地区のサステイナブルなまちづくりの理念や成果を伝え、共感を生み出す「エリア版CSR報告書」、小冊子や書籍の発行、ＷＥＢやＳＮＳ等の活用により、地区ならではの面的な取り組みのPR・情報発信を行う
⑤ 上記の活動拠点を地区内に整備し、情報の集約・編集・発信機能を備えたスタジオ化を図る
⑥ これまでに作られたインフラストックの更新・利活用を進めるストックマネジメントの必要性や方法論について研究し、地区内のストックの有効活用を促進

※17 欧米で制度化されている Business Improvement District の略。
都心環境改善地区。地区内の資産所有者（受益者）から徴税的に集められる資金等をもとに、エリアマネジメント組織が活動を行う仕組み。